

栃木県現代俳句協会報

No. 178



第一七八号

発行所

〒三三七-〇三二五

佐野市吉水駅前一五八水口方
栃木県現代俳句協会

発行人

中井 洋子

編集人

山野井 朝香

令和七年六月一日発行

第七十一回俳句研究会

令和七年四月三日(木)
日光市民活動支援センター

雨の俳句研究会

小川 たか子

四月三日は予報どおりの雨でしたが、周りの景色が落ちていて見えるぐらいの小雨でした。れんめんと雨傘を連ねて歩くグループも、晴天のときとは違う個と衆のほど良いバランスを保っていたように思います。雨傘が時折私たちを個へ誘ったからかも知れません。また、今市の街のあちこちを流れる水音も、私たちを衆から個へそっと引き放すことがあったのかも知れません。

一時より句会開始。まず中井洋子会長のお話が私たちの緊張をほぐして下さいました。「俳人はお天気がどうであろう

と俳句を作ります。むしろ、天気が良くない時のほうが好句が出来るかも知れません。今市は日光という世界遺産を控えており、杉並木を始め吟行に事欠くことはありません。吟行とは自分の足で歩くこと。歩くことで街の表情が見えてくるものです。」俳句に生憎などなく、遭遇した現場に俳句は生まれるという前向きなお話に納得でした。

句会では得点がちらばりました。それだけ多くの佳句があったのだと思います。今市のあれもこれもが名告りを挙げたように句が集まり、改めて自分の目の節穴





に気づかされました。同じものを見ていたはずなのに私には全く見えていなかったという節穴。でも、その節穴は、会員の皆様の句により、驚きと感嘆で塞がったような気がします。吟行ならではの学びでした。皆様、ありがとうございました。

上都賀支部の本間睦美様はじめ担当の方々、お世話になりました。「尊徳の俳句」の資料まで用意していただき、重ね重ねありがとうございます。おかげで楽しい一日になりました。

新鮮な句との出会い

白井正枝

当日は、あいにくの雨でしたが、吟行地は瀧尾神社、二宮尊徳ゆかりの神社や記念館、そして杉並木公園と歴史ある所ばかり。また、下今市駅ではS/Lや転車台と、魅力的な句材に多く出会えました。限られた時間内に、どこをどう切り取るか、一人静かに、あるいは数人で移動しながら句作。投句の締切は午後一時。会場は日光市民活動支援センターの報徳ホールで、窓越しに鉤を持った尊徳坐像が見え、まるで、句会を見守られているかのようなでした。

本間睦美支部長の進行で句会が開始され、中井洋子会長より「雨の中、遠方の方を含め十六名の参加者を得て」と労いの挨拶をいただきました。総投句数四十八句。各人五句選し、集計の後、四名の特別選者の方々の講評をいただきました。

吟行句として、やはり、二宮尊徳に関する句は多く、二宮堀(用水路)の呼び名や、記録簿である廻村誌を知る機会となりました。また、担当の上都賀支部が用意してくださった参考資料により、二宮金次郎(尊徳)の句に初めて触れる事ができました。新田開発を

心田開発と言ったに相応しい句。

はるさめやぬれて耕す人心

おもひ盡し勤盡して青田哉 等

俳句の素養が、後に思想を人々に分かりやすく伝えた「道句」や「道歌」に繋がったという。自分の心が言葉に入ってこそ読み手に伝わる。改めて心に刻む研究会となりました。初めての参加で、余裕はありませんでしたが、支部を越えての交流は、新鮮な句に出会える交流でもあり、選者の方々の講評から更なる深さを学び、有意義な時間となりました。また、皆さんと揃っての電車の帰路も、吟行ならではの楽しいひと時となりました。



◇特選賞

和田 浩一 選

葉種梅雨「この先日光」道標

中村 克子

中井 洋子 選

桜二分文字美しき廻村誌

佐々木輝美

須藤火珠男 選

二宮堀の水音に混じる誰が春愁

小川たか子

中村 克子 選

SLの汽笛さくらをめざめさせ

和田 浩一

◇最高点

桜二分文字美しき廻村誌

佐々木輝美

◇その他の作品（順不同）

尊徳も行きし花菜の地の起伏

中井 洋子

花の雨酒好き尊徳出て来そう

須藤火珠男

仏の座踏み尊徳の像拜む

中村 國司



諸家近詠

花冷えや奉納額に兵士の名

池澤 光子

婆五人花冷えの街彷徨えり

北島 洋子

車窓から霞む男体なんたい山晚年も

戸田富美子

春泥のふかき轍の神社道

山野井朝香

たんばの明るさ程を我がものに

和田璋子

花粉症追分地蔵には無縁

本間 睦美

杉並木の冷え俄かなり今市宿

鯉沼 桂子

SLに皆がくぎづけ春休み

増山 ちさ

水滴にすずなりの春杉大樹

白井 正枝

宇津木玲華

花ほころび顔ほころび袖口も

花散らし風の便りや赤子泣く

アルバムが夫の全景夏の星

注文はお子様ランチ婆の夏

絶望と希望酷暑のベーターベン

沙羅双樹の花を見た事人に言う

紬織る糸やわらかし梅雨真近

のびくと体を解し草撈る

朋友と声をぬらせりソーダ水

信濃路のいま白樺の芽吹き時

横井 康子

校舎からカレーの匂い青葉風

花吹雪小さき子等とハイタツツ

争いのニユースを消して葱きざむ

通草まだ口を閉ざして思案中

芭蕉布の透けてその先沖縄戦

野蒜剥く楽しみ今夜は老酒に

山野井朝香

健やかな樹々の動悸も端午の日

卯の花月夜砂漠行きのバスに乗る

紐を解く部屋の昏さや葉の日

葉桜やもうとすればメロンパン

高木 洋子

春乗せて新幹線の発車ベル

伝言板の名前を捜す昭和の日

ハザードマップ指で辿って防災日

意地で咲いてる大寒の芝桜

明日あかるく山の桜の冬蕾

須藤 正之

寒月光怒り鎮まるまで歩く

七草の揃いの箸は能登みやげ

初彼岸兄のポケットからマスク

花は葉に腰に纏わるコルセット

父の日の現像液の匂いかな

第62回現代俳句全国大会

作品募集

投句締切は
7月31日(必着)

WEBはこちら



現代俳句全国大会は、年に一度、現代俳句協会が主催して行う伝統のある大会です。協会員に限らずどなたでも参加できますから、例年にも増してたくさんのご応募をお待ちしております。

- 応募規定
 - ①3句・1組・2千円 何組でも可。ただし、新作未発表作品に限る。②3組9句同時投句に限り、6千円を5千円にいたします。
 - ③題詠1句(無料)。昭和百年の今年は、「昭和」をテーマにした俳句を募集(題詠のみの投句は不可)。投句料は普通郵便、定額小為替(無記名)、現金書留(作品同封。郵便払込、青い払込取扱票使用)のいずれか。
 - ※郵便便込み・加入者名・一般社団法人現代俳句協会振込口座番号・0016016152603
 - 受領証のコピーを投句用紙に添付。
 - 送付先 〒101-8521 東京都千代田区外神田6-5-4 信楽ビル外神田7階
 - 一般社団法人 現代俳句協会全国大会係
☎03-3839-8190
 - 締切 7月31日(木)必着
 - 顕彰 協会会員誌「現代俳句」に発表。協会刊行物に採録
 - 賞 大会賞、会長賞、後援新聞社賞、特別選考賞、秀逸賞、佳作。
 - 金参加者に入選作品集贈呈
 - 全国大会
令和7年11月3日(月・祝)午後一時より
「東大紅」上野店 ☎03-3828-5111
〒110-0008 東京都台東区池之端1-4-33
 - 記念講演 昭和百年をテーマにした講演
懇親会 午後5時より(会費8千円)
 - 本午は別日、別会場にてイベント開催予定
(詳細は後日発表)

【主催】一般社団法人 現代俳句協会 【後援】文化庁・毎日新聞社・朝日新聞社・読売新聞社

◇お知らせ

- ・片桐基城
現代俳句一月号 列島春秋に句が掲載されました。
- ・石倉夏生
現代俳句二月号 風を詠む・感銘八句抄が掲載されました。
- 現代俳句三月号 新作現代俳句十句掲載されました。
- ・山野井朝香
現代俳句二月号 列島春秋に句が掲載されました。
- ・増山ちさ
現代俳句三月号 列島春秋に句が掲載されました。
- ・相田勝子
現代俳句四月号 列島春秋に句が掲載されました。
- ・大竹照子
現代俳句四月号 『現代俳句年鑑2025』を読む
感銘の一句評・感銘十句抄が掲載されました。

※次号179号の原稿締切りは
7月15日です。